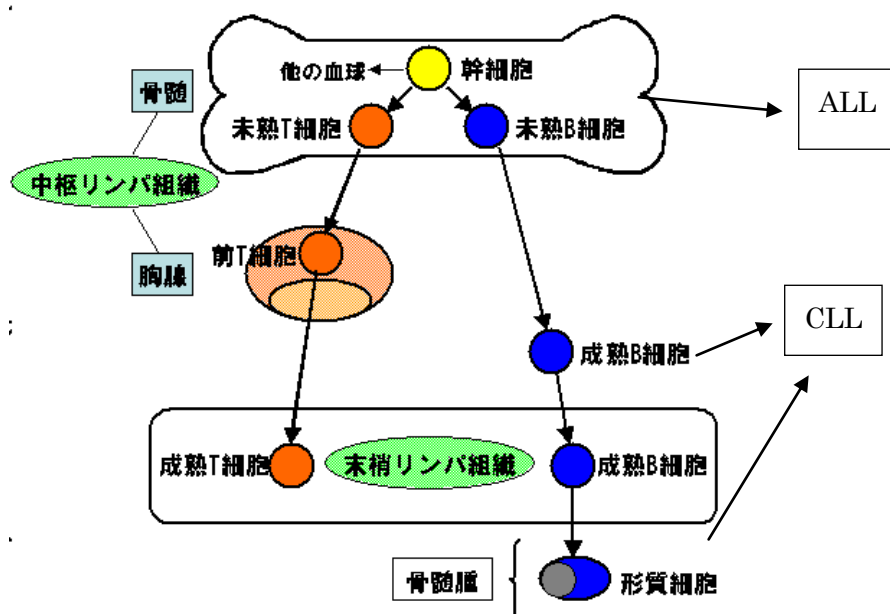


⑬慢性リンパ性白血病（CLL）とはどんな病気？

急性リンパ性白血病（ALL）と同じく、リンパ球が癌化する疾患ですが、将来リンパ球になっていく細胞（リンパ性前駆細胞）ではなく、すでに成熟してしまったリンパ球が癌化し、それが主にリンパ節ではなく、血液中や骨髄中で増殖するようになった疾患です。血液中に5000/mm³個以上のリンパ球があり、骨髄中のリンパ球が30%以上あり、しかもCD5（シーディーファイブ）という細胞の目印が陽性になるという特徴があります。CLLの癌細胞は通常Bリンパ球です。欧米では白血病患者の約30%が本疾患ですが、日本では3%と少なく、人口10万に対して約0.4人の発症率です。



急性リンパ性白血病が未熟リンパ球が癌化するのに対して慢性リンパ性白血病は成熟リンパ球が癌化する病気です。

CLLは非常に緩徐に進行する病気ですので、初期病変で見つかった場合、治療を必要としないことが多いです。治療が必要な時は、リンパ節が急速に大きくなってきた、リンパ球が急速に増えてきた、貧血や血小板減少が出てきた、体重減少が出てくるような場合となります。フルダラビン（俗にプリンアナログと呼ばれるタイプの抗がん剤）という薬が良く使われ、そこにエンドキサンなどのアルキル化剤という抗がん剤を併用することがあります。悪性リンパ腫という病気に対して用いるリツキサンという薬も使われることがありますが、現在日本では保険適応外です。最近オフアツムマブ（アーゼラR）という、リツキサンと類似のお薬が発売されました。